

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【5月6月度の御金言】濁水心無けれども、月を得て自ら得て自ら清めり。草木雨を得て、豈に覺り有りて花さくならんや。・・・初心の行者其の心を知らざれども、而も之れを行ずるに、自然に意に当たるなり。

『四信五品抄』(342頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲載

☆ 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

長年卒業ソングのランクインの一位として、全国の小中高の学校で合唱、演奏曲とされ親しまれている曲に『旅立の日に』があります。皆さん方も、御孫さんの卒業式や、普段の生活の中のラジオやテレビで、フレーズを耳にした事あると思います。

この曲は、1991年に秩父市立影森中学校の、小嶋 登校長先生が作詞し、同校音楽教師坂本 浩美先生が作曲しました。学校全体が三年生の卒業式を迎えるスケジュールに入っていく中で、坂本先生は、今迄有る、卒業ソングでなく、もっともっと卒業生の心に伝わる歌が欲しいと思い、校長先生に、思いを伝え、作詞をして貰えないかと御願ひします。しかし、小嶋校長先生は、「私はそういうセンスが無いから勘弁して下さい。」と、断られます。坂本先生は、残念だが仕方が無い、今迄の卒業ソングから選ぶしかないなと考え、次の日登校してみると、坂本先生の机の上に、『旅立の日に』の歌詞が置いてありました。坂本先生は、小嶋校長先生が一晩で書いてくれたんだと、一読し、その内容に感激し、早速ピアノに向かい15分で作曲し、卒業式までに、校長先生を中心に教職員全員が歌唱練習をし、卒業式の当日、ステージに並び、先生全員から卒業生全員へ贈る歌として初演されました。そして、この卒業式が、小嶋校長先生にとっても、定年を迎える最後の卒業式だったのであります。この卒業式に、列席した、卒業生、保護者の多くは、心に自然に染み入って来る歌詞とメロディーに涙を抑える事が出来なかったと話されています。影森中学校には、『旅立の日に』の歌碑が建立されています。そして、この『旅立の日に』が、この日を源として、湧き上がるように全国に歌い継がれ広がって行ったのであります。

♪『旅立の日に』♪

白い光の中に、山なみは萌えて

遙かな空の果てまでも、君は飛び立つ
限りない青い空に、心ふるわせ
自由を駆ける鳥たちよ、振り返る事もせず
勇気を翼にこめて、希望の風にのり
この広い大空に、夢を託して

懐かしい友の声、ふとよみがえる
意味もないいさかいに、泣いたあの時
心かよったうれしさに、抱き合った日よ
みんな過ぎたけど、思い出強く抱いて
勇気を翼にこめて、希望の風に乗る
この広い大空に、夢を託して

いま別れの時、飛び立とう 未来を信じて
弾む若い力を信じて
この広い、この広い、大空に
いま別れの時、飛び立とう 未来を信じて
弾む若い力を信じて、
この広い、この広い、大空に ♪

この曲は、今では、卒業式時だけでなく、年間を通して、合唱コンクールやブラスバンドコンクール等で奏でられていて、卒業式に唄われるランクインの一位を維持しているのがあります。

卒業ソングといえば、沢山のプロ音楽関係者、シンガーソングライターが、卒業時に関わる楽曲を作り出しているに関わらず、この曲が沢山の人から支持され、思い出に刻まれ、歌い続けられているという事の原因を、私なりに考えると、この曲が生み出された源に有ると思います。二人とも世の中の音楽関係のプロでは無く素人です。しかし、沢山の生徒と関わり、悩み苦しめ、送り出し、長い教員生活を終え去る小嶋校長先生の思いが、湧き上がる様に一晩で詩に凝縮され、坂本先生が 15 分でメロディーが湧き上がるようにあられ一つになり産まれた。永年の教育の現場で、生徒と正面から向き合ってきた思いが、湧き上がる源泉になって産まれた曲だからこそ、沢山の人の人生の節目に、大切な思い出と、限りない未来へのはちきれんばかりの希望を謳った歌詞とメロディーが寄り添うように湧き上がり多くの人々の心にしみて行ったのだと思います。

私は、信仰に置き換えれば、これは深い縁だと思います。過去現在未来の沢山の出会い、思い、感謝、恩、喜び、悲しみ、苦しめ、怒り、憎しみ等々の十界の繋がり、自分でも覚えていない、意識出来ない、そういう縁によって私達は、今この妙法を信じる縁を持っているのであります。何年前か前に、あの人に勧められてという現世の理由はきっかけであって、ずっと続けて来たのは、自分の心に湧いて来るものがなければ続ける事は出来ないのがあります。その縁は、過去世の仏道修行の続きかもしれないし、謗法の罪障消滅かもしれないかもしれませんが、爪の上の土の人間に生まれ、爪の上の妙法に縁し、爪の上の妙法信仰者とし

て貫いている縁を爪の上の成仏に向かって生きて行く事は、本当に尊い縁であります。この湧き上がる妙法の縁を、自分がそうであるように縁する人に伝えて行ける信仰をして大切にしていきたいと思えます。

☆ 6月13日の日蓮大聖人御報恩御講は、恒例【質疑応答形式】ですので、信仰に関する皆さん方からの質問をドシドシお寄せ下さい。疑問を晴らし、納得し、喜びを感じ、信仰の心を深くし、この喜びを縁する人に伝えたいと思える信心が本当の信心であります。疑ってはいけない、言われた通り付いて来い、言われた通りやれば良いは、信仰ではありません。自分で考える信仰こそ本当の信仰です。自分の考えを捨てろと言うのは、ニセモノ信仰、洗脳信仰です。